

東洋大学学術情報リポジトリ Toyo University Repository for Academic Resources

## 英語の結果構文と中国語の結果複合動詞構文：開放スケール述語について

著者	シア ティエン ミン テレンス
雑誌名	経済論集
巻	40
号	1
ページ	151-167
発行年	2014-12
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1060/00006898/">http://id.nii.ac.jp/1060/00006898/</a>

# 英語の結果構文と中国語の結果複合動詞構文 —開放スケール述語について—

シア ティエン ミン テレンス

## 1. 問題提起

英語の結果構文をテーマに、同じSOV型の言語である中国語と対照し、結果構文とそれに対応する中国語の結果複合動詞の構文を通して、両言語において、どのように結果を表しているかを検証したい。この論文では開放スケールを持つ結果述語に焦点を当てて、英語では許されない構文がなぜ中国語では許されるのかという相違点について考察したい。まず、問題となる例文をみよう。

- (1) He shot the bird dead.

“彼は鳥を撃ち殺した。”

- (2) She cooked the roast dry.

“彼女はロースト肉をばさばさになるまで焼いた。”

- (3) She cried her handkerchief wet.

“彼女が泣いてハンカチを濡らした。”

- (4) \*She sang the song famous.

“彼女は歌を有名にした。”

上記の4つの英語の例文はどれもSVOC構文なのに、なぜ許されるのは(1)―(3)のみなのであろうか。問題は動詞の種類に起因するのか、それとも形容詞に起因するのか。この疑問を突き詰めることが本論文の狙いである。さらに、今度は中国語の結果を表す構文に目を向けると、このような言語現象が観察される。

- (5) 他把小鸟射死了。

He shot the bird dead.

(6) 她把肉烤干了。

She cooked the roast dry.

(7) 她哭湿了手帕。

She cried her handkerchief wet.

(8) 她唱红了那首歌。

\*She sang the song famous.

(9) 师傅把面条拉长了。

\*He pulled the noodles long.

(10) 我这辆车买贵了。

\*I bought the car expensive.

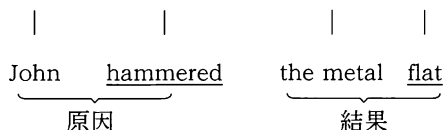
中国語では、英語の(1)―(4)の構文は問題なく、結果複合動詞構文で表せるのみならず、英語では許されない(8)―(10)のような構文まで許容する。それはいったいどのような要因で動詞と形容詞の組み合わせが許されるのだろうか。つまり、なぜ英語では(4)のような文が許されないのに、中国語では(8)―(10)のような例文が許されるのだろうか。論文では、こういった個別言語における現象の原因と、言語間に見られる言語現象の相違の原因を探っていききたい。

英語の結果構文において、結果述語が果たす役割が注目されており、とりわけ結果述語になる形容詞の種類が問題視されてきた。形容詞結果述語の研究について、スケール構造理論が近年研究の焦点となっている (Boas 2003, Kennedy and McNally 2005, 小野 2007, Wechsler 2005, など)。スケール構造は英語のみならず、中国語の形容詞も説明できる理論として認識している。そのため、本論文はスケール構造理論を援用して、英語と中国語の結果構文についてひとつの理論的枠組みの基で考察していききたい。

## 2. 結果構文の統語構造

典型的な英語の結果構文の統語構造は

(I) S (主語) + V (動詞) + O (目的語) + RP (Resultative Predicate; 結果述語)



のとおりである。結果構文には、動作主の動作が対象に状態変化をもたらすという意味を表すという特徴がある。そして、統語的に、このような構文は単一の節内に動詞（一次述語）と結果述語（二次述語）が含まれる。意味的に、結果構文は原因事象と結果事象からなる事象構造を持っている。

一方、中国語では、この単一節内での原因・結果の関係を表すのに、結果複合動詞で対応できると思われる。

(II) S (主語) + V1V2 (結果複合動詞) + 了<sup>1)</sup> + O (目的語)

他	敲扁	了	铁片。
Ta	qiaobian	Le	tiepian
“He hammered the metal flat.”			

英語の原因・結果を表す結果構文の意味的特徴を考えると、中国語の結果複合動詞もこれ相当な意味特徴を持っているといえる。つまり、結果構文とV1V2の構文において、本動詞または前項動詞（V1）と結果述語または後項動詞（V2）の関係は、上位事象である動作主の働きかけが原因となって、下位事象である対象がある状態を被る結果となる、いわゆる因果関係である。両言語の異なる形式が表そうとする意味概念は語彙概念構造で表すと、次のような達成事象 (accomplishment) になる。

[ <sub>Event</sub> x ACT ON <sub>&lt;hammered&gt;</sub> y] CAUSE [ <sub>Event</sub> BECOME [ <sub>State</sub> y BE [ <sub>State</sub> AT - z ]]]	
働きかけ	対象
対象	結果状態
の行為	
原因	
結果	
John hammered the metal	the metal flat
他 敲 铁片	铁片 扁

### 3. Scaleの定義

ここで、スケール構造理論について紹介したい。スケールについて、Hovav (2008:17) は次の

1) 了 le: 完了を表わすフェーズマーカである。

ように述べた。

A scale is an ordered set of values for a particular attribute. A scale change is one which involves an ordered set of changes in a particular direction of the values of a single attribute and so can be characterized as movement in a particular direction along the scale. For example, in the case of the verb warm, the scale is composed of ordered values of the attribute warm, and a warming event necessarily involves an increase in the value of [warm].

(筆者訳：スケールはある特質の値を指す。スケール変化は一つの特質の値がある方向に向かって順を追って行われることを言い、スケールに沿ったある方向の移動と特徴づけることができる。たとえば、「温める」という動詞のスケールは、「温かい」という特質の値からなり、温める行為は必ず「温かさ」の値の増加を意味する。)

スケール構造において、二種類の変化事象、スケール事象と非スケール事象がある。それぞれの事象は二種類の動詞、スケール動詞 (scalar verbs) と非スケール動詞 (nonscalar verbs) に対応している。

スケール動詞はスケールを語彙的に指定するが、非スケール動詞はスケールを語彙的に指定しない。

(11) スケール動詞 (Scalar verbs) :

warm, ripen, cool, fall, rise

熱、熟、涼、落、伸

(12) 非スケール動詞 (Nonscalar verbs) :

Move, float, bounce, crawl, exercise, laugh, rain

動、浮、蹴、爬、笑

非スケール動詞は様々な結果述語と共起できる。有界スケールが含意される結果述語は非スケール動詞句の有界性 (boundedness) を表す。結果述語は新たなスケールを導入するか、語彙的に指定されたスケールをさらに指定する。

(13) a. We steamed the clothes dry.

(閉鎖スケール)

- b. We steamed the clothes clean. (閉鎖スケール)  
 c. We steamed the clothes stiff. (閉鎖スケール)

- (14) a. Cinderella scrubbed her knees sore. (閉鎖スケール)  
 b. Cinderella scrubbed the dirt off the table.  
 c. Cinderella scrubbed the table clean. (閉鎖スケール)

一方、スケール動詞（語彙的に指定されるスケールを持つ動詞）は制限された結果述語しかとれない。この場合の結果述語は、スケールの境を指定するか、語彙的に指定されたスケールの境をさらにする。語彙的に指定されたスケールと無関係のスケールをとることはできない。

- (15) a. We froze the ice-cream solid.  
 b. The walnut broke apart.  
 c. The chocolate melted into a messy goo.  
 d. Then the biologists dimmed the room to the level of starlight.  
 e. \*We dimmed the room empty.  
 f. \*We froze the people out of the room.  
 g. \*We broke the vases worthless.

この制限は一つの事象には一つのスケールか基準しか許されないという制約から由来する。(Tenny 1994, Goldberg 1995, L&RH 1995) .

また、スケール動詞はtwo-point scale動詞かmulti-point scale動詞に分けることができる。(Beavers 2006, 2007, Hovav 2008). two-point scale動詞は内在的に有界性を持っている (inherently bounded)。そのため、two-point scale動詞はtelicである。たとえば、die、notice、explode.

- (16) The can exploded into pieces.

Multi-point scale動詞は特質の多数の変化を意味するため、持続的な事象 (durative) である。この種の動詞は有界動詞と非有界動詞に区別される。有界動詞と非有界動詞はちょうど段階的形容詞の閉鎖スケールと開放スケールに相当する (Hay 1998, Kennedy and McNally 2005, Rotstein and Winter 2004, Wechsler 2005)。

- (17) a. 非有界動詞：Play and cry  
 b. 有界動詞：Widen, dim, increase

### 3. 英語の結果述語の種類

結果述語は有界のスケールを表す (“Resultative predicates denote a bounded scale.” Vanden Wyngaerd 2001: 64)。結果構文が終点がある事象を表す完結 (telic) であることは、この結果述語の性質によるものである。結果述語がスケールを表すということは Kennedy and McNally (1999, 2005) および Wechsler (2005) によって提唱されるが、彼らの議論を整理すると、次のようになる。

形容詞は段階的と非段階的と大きく二種類に分けることができる。段階的形容詞は程度修飾詞と比較級を受け入れるが、非段階形容詞は程度修飾詞と比較級を受け入れない。

- (18) a. very/ quite/ extremely {long/flat/expensive} 段階的  
 b. ?? very/quite/extremely {dead/triangular/invited} 非段階的  
 (19) a. longer, taller, duller, wetter, more expensive, fuller, straighter 段階的形容詞  
 b. \*deader/\*more dead, \*brokener/\*more broken, \*crookeder / \*more crooked 非段階的形容詞

Kennedy and McNally (2005) はさらに段階的形容詞には開放スケール (open-scale adjectives, e.g. tall, long, short) と閉鎖スケール (closed-scale adjectives, e.g. full, empty, straight, wet, dry) の二種類があることを指摘している。前者のほうは自ら内在的な基準を持っておらず、文脈から基準を得るが (relative adjectives)、後者のほうは絶対的な基準が形容詞自体に含意される (absolute adjectives)。たとえば、(20a) の文は、Michael Jordan というバスケットボール選手の背が文脈に定められた基準、たとえば、他の選手や一般の人、より高いことを意味している。一方、(24b) の文は、形容詞の意味に内在する基準点があるため、文脈に依存しない。Full というのは、最大値を持つスケールという絶対的な基準がある。反対に、empty というのは、最小値の極点を持っている。

- (20) a. Michael Jordan is tall. (Wechsler 2005: 269)  
 b. The glass is full/empty. (小野 2007: 72)

Wechsler (2005) は形容詞を次のように分類している。

表 1. Wechsler (2005) の形容詞分類

段階的 (gradable)	開放スケール		long, tall, dull, wide, short, cool, deep, shallow, expensive, famous
	閉鎖スケール	最大値の極点	full, straight, dry
		最小値の極点	wet, empty, dirty, open
非段階的 (non-gradable)			dead, broken, crooked

段階的形容詞はスケールをなしているとみなすことができる。開放スケール形容詞は極点をもっていないため、文脈から基準点を得るしかない。最大値閉鎖スケール形容詞は終点に極点を持つものに対して、最小値閉鎖スケール形容詞は始点に極点を持つ。

また、開放スケール形容詞と閉鎖スケール形容詞を区別するためには、completelyやhalfといった副詞と共起できるかどうかというテストがある。開放スケール形容詞は内在する極点を持っていないため、completelyと共起できない。なぜならば、「completelyは極限值（最大か最小）を含むスケール上の範囲を修飾するためであると考えられる」（小野 2007:72）。

- (21) a. completely/half full/ empty/ straight/ dry                      閉鎖スケール  
       b. ?? completely/half long/ wide/ short/ cool                      開放スケール

Wechsler (2005) によると、tall, shortといった開放スケール形容詞は事象の終点を示す内在する極点を持っていない。つまり、Michael Jordan is tallという文から、Michael Jordanがほかのバスケットボール選手または一般人よりも高いと自然に解釈できるかもしれないが、その比較の基準が形容詞には内在するのではなく、文脈によるものである。

英語の結果構文における形容詞の結果述語は、閉鎖スケールを有するものか非段階的な形容詞でなければならない。開放スケールの形容詞は許されない。なぜならば、結果構文の完結性は結果述語によって成立し、閉鎖スケール形容詞は最大値という極点を持っているため、動作が働きかける事象を終結することができるからである。開放スケールの形容詞は極限值を持っていないため、結果構文には現れないのである。



＜開放スケール形容詞＞

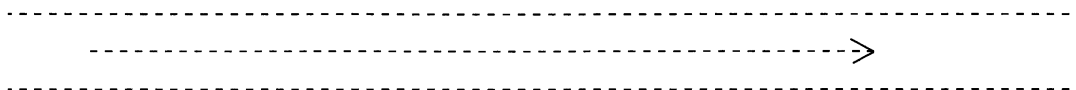
- (22) a. Michael Jordan is very/\*completely tall.

“マイケルジョーダンはとても/\*完全に高い。”

- b. Peter is very/\*completely sick.

“ピーターはひどく/\*完全に具合が悪い。”

tallのスケール

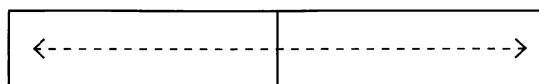


＜閉鎖スケール形容詞＞

- (23) The glass is \*very/completely full.

fullのスケール

empty (-)



full (+)

(例文(1)―(4)の再録)

- (24) He shot the bird dead.

“彼は鳥を撃ち殺した。”

- (25) She cooked the roast dry.

“彼女はロースト肉をばさばさになるまで焼いた。”

- (26) She cried her handkerchief wet.

“彼女が泣いてハンカチを濡らした。”

- (27) \*She sang the song famous.

“彼女は歌を有名にした。”

動詞と形容詞との関係について、次のような組み合わせが観察される。

- (28) a. Durative verb + gradable scalar (非有界動詞 + 段階スケール)

e.g. He hammered the metal flat. He loaded the truck full.

- b. Telic verb + non-gradable scalar (有界動詞 + 非段階スケール)

e.g. He shot the bird dead.

## 4. 中国語の結果述語（形容詞）

### 4.1. 結果述語の分類

中国語では結果補語となり得る形容詞、V2の位置に来られる形容詞はそれほど多くない。马・陆（1997）によると、その数は216しかない<sup>2)</sup>。

英語の形容詞分類は中国語にも当てはまるが、完全に一致しているわけではない。朱（1982）の形容詞分類によると、中国語の形容詞は程度副詞の“很”と共起でき、しかも目的語を担うことができない。したがって、朱（1982）の分類した形容詞はWechsler（2005）の分類中の段階的形容詞に相応する。また、中国語の形容詞は開放スケール形容詞、最大値の閉鎖スケール形容詞、最小値の閉鎖スケール形容詞に分けることもできる。しかし、英語の非段階スケール形容詞は動詞派生形容詞（e.g., dead, broken）であるため、動詞派生形容詞がない中国語は動詞で対応しなければならない。品詞は違うものの、中国語も英語と同様に結果述語を数種類に分類することができる。英語・中国語の結果述語の分類は表2. のとおりである。

表2. 英語・中国語の結果述語の分類

			英語	中国語
段階的 (gradable)	開放スケール		long, tall, dull, wide, short, cool, deep, shallow, expensive, famous	长、高、短、深
	閉鎖スケール	最大値の極点	full, straight, dry	空、满、干
		最小値の極点	wet, empty, dirty, open	湿、脏
非段階的 (non-gradable)			dead, broken, crooked	死、破、歪

### 4.2. 結果述語の選択制限

英語では、開放スケール形容詞が結果述語として容認されないことを見てきたが、中国語ではそのような制限はない。

（例文(8)―(10)の再録）

(29) 她唱红了那首歌。

\*She sang the song famous.

2) その内訳は、単音節形容詞が153個で、二音節形容詞が63個である。

(30) 师傅把面条拉长了。

\*He pulled the noodles long.

(31) 我这辆车买贵了。

\*I bought the car expensive.

英語・中国語の形容詞結果述語として容認される度合いを示すものは表3.である。

表3. 英語と中国語の形容詞RP (=V2) の違い

RP (=V2) が			英語	中国語
段階的	開放スケール		<i>*pull...long/buy...expensive</i>	拉长/买贵
	閉鎖スケール	最大値の極点	full...full	装满
		最小値の極点	kick...open	哭湿
非段階的			shoot...dead	射死

表3. は一見、中国語で英語と違って、どのスケールの形容詞であっても、結果述語として容認されることを示している。しかし、さらに詳しく見ると、中国語でも開放スケール形容詞が制限される構文がある。それは派生的結果述語を持つ結果構文である。

本来的結果述語とは、break、freezeなど状態変化を表す動詞のみに許される述語である。つまり、その動詞自体の意味に含意される変化状態をさらに具体的に描写するのが本来的結果述語である。一方、派生的結果述語とは打撃・接触 (hammer) や意図的ないし生理的活動を表す非能格動詞 (shout、bark) のみに許される述語である。動詞自体は変化を含意しないが、結果述語が加わることによって、動詞の下位範疇化されない名詞句 (すなわち、動詞がもともと取らない目的語) に変化を引き起こさせるという意味になるのが派生的結果述語である。

中国語の開放スケール形容詞は結果補語として振る舞い、《动结式<sup>3)</sup>》という結果複合動詞を形成する。馬・陸 (1997) では、《动结式》を形成できる形容詞を考察し、その多くが開放スケール形容詞である。

- (32) a. 抗挖深了。                      b. 墙垒矮了。                      c. 头发剪短了。  
       a'. 毛衣织大了。                    b'. 眉毛画浓了。                    c'. 桌子垫高了。  
       a". 裤子买贵了。                    b". 白菜丝切细了。                    c". 衣服洗小了。

3) 《动结式》とは動詞と動詞、または動詞と形容詞からなる結果複合動詞のことである。

よく見ると、この例文はすべて本来の結果述語の構文である。(19)の結果述語は動詞の対象を叙述している。開放スケール形容詞は《动结式》の補語として振舞うとき、動作主の働きかける対象しか叙述できないのか。

答えはそうである。閉鎖スケール形容詞と違って、開放スケール形容詞は《动结式》の複合動詞のとき、派生的述語として振舞うのが難しい。それは、たとえ、意味上理解されうるような出来事でも語として認められにくい。以下のa) のV2が閉鎖スケール形容詞で、b) のV2が開放スケール形容詞の複合動詞の例をみてみよう。

- |                     |                 |
|---------------------|-----------------|
| (33) a. 跑步跑坏了鞋子。    | b. *跑步跑大了鞋子。    |
| (34) a. 写文章写光了一瓶墨水。 | b. *写文章写少了一瓶墨水。 |
| (35) a. 写文章写断了一支铅笔。 | b. *写文章写短了一支铅笔。 |
| (36) a. 踢足球踢破了球鞋。   | b. *踢足球踢远了球鞋。   |
| (37) a. 切菜切坏了切菜板。   | b. *??切菜切短了切菜板。 |

上記の例では、動詞も動作の対象も同じであるが、述語は違う。(a) の例は、閉鎖スケール形容詞が述語で、述語が動詞の下位範疇化されない名詞句を叙述している派生的結果構文である。(b) は開放スケール形容詞が述語であるが、ごらんのとおり、たとえ意味が解釈できても文として成立しない。たとえば、(35b) の铅笔は“写”の道具であって、使っていくうちに短くなるが、複合動詞の形では文として成立しない。一方、a) のほうでは、補語が“断”になると、文は成立する。つまり、開放スケール形容詞は派生的述語として振舞うことができないことが言える。

開放スケール形容詞が派生的述語として振舞うことができないもう一つの証拠は、結果補語として振舞うとき、語彙の意味が分岐しないことである。閉鎖スケール形容詞が結果補語として振舞うときは、(26)のように意味が二通りに解釈される場合がある。

(38) 踢 破 了 球鞋

蹴る 破る Le 運動靴

意味1: 運動靴でボールを蹴った結果、運動靴が破れた。(補語が叙述する対象は動作の対象ではない)

意味2: 運動靴を蹴った結果、運動靴が破れた。(補語が叙述する対象は動作の対象)

しかし、開放スケール形容詞が結果補語として振舞うときは、意味は分岐されない。補語は動作の対象しか叙述できない。たとえば、“坑挖深了”、“垒矮了”、“头发剪短了”中の“挖”、“垒”、“剪”の対象は坑”、“墙”、“头发”しかならず、“ほかのものを掘った結果、穴が深くなった”、“ほかのものを積み上げた結果、壁が低くなった”または“ほかのものを切った結果、髪の毛が短くなった”というふうには理解できない。

## 5. 英語と中国語の補語における選択制限の差異

さきほど、英語の結果構文における形容詞の結果述語は、閉鎖スケールを有するものか非段階的な形容詞でなければならない、開放スケールの形容詞は許されないと述べた。その理由は結果構文の完結性は結果述語によって成立し、閉鎖スケール形容詞は最大値という極点を持っているので、動作が働きかける事象を終結することができるが開放スケールの形容詞は極限值を持っていないため、結果構文には現れないからだとも述べた。

しかし、中国語では開放スケール形容詞でも結果補語として振舞うことができることから、英語で通用する説明は中国語には当てはまらない。ここからは英語・中国語の結果述語における差異について検証してみたい。

まず、中国語の段階スケール形容詞が述語として振舞うとき、内在的に比較の基準を願意している(朱1956)。朱によると、性質形容詞(つまり段階性を持つ開放スケール形容詞)が述語になったとき、比較または対照の意味を持つと述べている。

(39) 哪本好? 这本好。

(40) 里头冷还是外头冷? 外头冷。

開放スケール形容詞の“好”と“冷”は述語として振舞うときは(“这本好”、“外头冷”)比較の意味を持っている。つまり、ある本がいかどうかを判断する基準はほかの本と比較するとき、また外は寒いどうかを判断する基準は中との比較から生み出されるわけである。よって、この“好”と“冷”は英語の”better”と”colder”で対応させたほうが正しい。Sybesma (1999) も中国語の形容詞の比較級は無標であることを述べている(c.f. 英語の形容詞は原形では無標である)。

(41) a. 玛丽的头发短。

b. 玛丽的头发很／挺短。

(42) a. Mary's hair is shorter (than other people's) .

b. Mary's hair is short.

(41a) では“短”は無標であるが、“ほかの人と比べてマリさんの髪の毛が短い”という比較の意味を表している。(41b) では“短”は副詞の“很/挺”と共に起っていて、有標であるが、マリさんの髪の毛が短いという状態を言っているだけで、比較の意味を表していない。一方、英語は正反対で、(41) の対訳は (42) のとおりである。なぜならば、英語では“short”が無標形容詞であり、“shorter”が有標形容詞であるからである。つまり、中国語の“短”は英語の“shorter”に、“很/挺短”は“short”に対応するわけである。このように、中国語の段階スケール形容詞は英語と違って、内在的に比較の基準を持っているのである。

さらに、中国語の形容詞は動詞と非常に似ており、終了アスペクトの“了”をつけ加えると、動的な意味を持つようになり、動作の変化を表すことができる。形容詞は動詞成分が含意される“了”を付け加えることによって、の内在的比較の基準が実現されるようになり、一層動的な意味が強まる。“玛丽的头发短了”が表しているのはもともとある長さとは比べて、今のほうが“比較的に短くなった”という変化した後の状態である。中国語の形容詞は“了”を付け加えることによって、このような動的な意味を生み出すことができる。たとえば、“湿了”、“脏了”、“高了”、“浅了”。しかし、対応する英語の形容詞、“wet”、“dirty”、“tall”、“shallow”は動的な意味を表すために、動詞成分の“-ed”、“-s”をつけることができない。

まとめていうと、開放スケール形容詞が結果補語になる理由は述語として振舞うときは比較の意味を持つことと、動詞成分が含意される“了”を付け加えることによって、動的な意味を表すことができるからである。

中国語におけるもうひとつの問題、つまり、なぜ開放スケール形容詞が派生的述語として振舞うことができないのかについては、ここから考察をしたい。

中国語の形容詞は本来の結果述語として振舞うときは、どんな種類の形容詞も容認されるが、開放スケール形容詞は派生的結果述語として容認されない。なぜこのような現象が起きるだろうか。本来の結果述語が叙述しているのは動詞の対象であるため、動作主が動作を行う過程は、対象が状態変化を被る過程でもある。たとえば、“洗干净衣服”では、“衣服”が“洗”の対象であるため、“洗”という動作と“衣服干净了”(洋服がきれいになった)という状態変化が同時に進行している。“洗衣服”の過程の終点は最大値である“干净了”という形容詞の存在によって実現される。

一方、派生的述語が叙述しているのは動詞の下位範疇化されない名詞句であり、すなわち、動詞がもともととらない目的語であるため、動詞が動作を行う過程と対象の状態変化を被る過程が一致する必要はない。たとえば、“唱哑了嗓子”では、“嗓子”が“唱”のもともとの対象ではないので、動詞の“唱”の進行と“嗓子哑了”の状態変化の実現は一致しなくてもいい。つまり、歌を歌った日ではなく、その翌日か二日後に声がカラカラになるという場合も考えられる。

- (43) Sam sang enthusiastically during the class play. He woke up hoarse the next day and said, 'Well, I guess I've sung myself hoarse.' (Rappaport & Levin, 2001)

開放スケール形容詞は結果述語として振舞うとき、対象の状態変化の過程は動作主が行う動作の過程と同時に展開しなければならない。開放スケール形容詞は固定の基準を持っておらず、一連の目盛りからなる段階性を含意する。述語になるとき、文脈から取れる比較の基準を持つようになるが、この比較の基準はスケール上のどの目盛りに位置づけることができる。開放スケール形容詞は結果述語として振舞うとき、補語が表す状態変化の過程は動詞が展開する過程と一致しなければならない。“坑挖深了”、“墙垒高了”、“毛衣织大了”の例では、動作の“挖”、“垒”、“织”の過程は必ず“坑深了”、“墙高了”、“毛衣大了”といった状態が実現される過程と一致しなければならない。なぜならば、“挖”、“垒”、“织”が行われる過程において、“坑”、“墙”および“毛衣”が変化しないことはありえないからである。過程が終了した時点で、“坑深了”、“墙高了”、“毛衣大了”といった結果状態が生まれてくる。

一方、閉鎖スケール形容詞は固定の極点を持っているため、動作の展開と対象の状態変化の過程と一致する必要はない。たとえば、

- (44) a. 铁锹挖坏了。 b. 胳膊垒酸了。 c. 织毛衣的针织断了。

のような例では、“坏”、“酸”、“断”は閉鎖スケール形容詞である。“铁锹坏了”、“胳膊酸了”および“针织断了”の実現の過程は必ずしも“挖”、“垒”および“织”の過程と同時進行しなくてもよいので、“坏”、“酸”和“断”のような述語は本来的述語として振舞うことができる。

動詞が継続動詞であれば、形容詞のスケールは一律段階スケールとして振る舞う。つまり、開放スケールと閉鎖スケールに区別されない。中国語の形容詞は、英語と違って、内在的な比較基準を持っている (relative adjectives)。英語では、形容詞が極限值を持っているか否かという特

徴があるが、中国語の形容詞をこのように両極化しにくい。中国語の形容詞は很、非常 (very, extremely) といった程度副詞の修飾を受ける点など、英語の最大値または最小値を持つ閉鎖スケール形容詞と異なる。

- (45) 老人躺在一堵墙下面，脸朝上，身体歪曲着，一条右腿撑得很开，看上去裤裆那地方很开阔。  
He pushed his thigh (\*very) open.

## 6. 中国語におけるスケール構造

形容詞の場合は、段階と非段階形容詞の2種類に分かれるが、段階スケールをさらに閉鎖スケールと開放スケールに分かれない。英語の形容詞は一つの単語に特定の意味を指定し、開放的、または閉鎖的といったスケールを持つものに対して、中国語の形容詞は絶対的な価値というより、コンテキストに基づいて意味が指定されるという相対的な性質を持っており、スケール構造上、英語ほど細分化されていない。

動詞の場合は、従来の説明では解決できない問題はある。Minimal Distance Principle (MDP, Rosenbaum 1967) が結果複合動詞の成立条件とされてきたが (In a resultative construction, the result XP is predicated on the closest prominent argument. (Huang 1992)), この原理ではなぜ非対格・他動詞の組み合わせがあるのか説明できない。さらに、次のような英中の相違も説明できない。

- (46) a. \*The can exploded full.  
b. \*The can exploded flat.  
c. 大盜三被獅子吼震七窍出血，酒席上的盘子全爆碎。  
d. 天下艺术团在海防市、胡志明市和首都河内共举行了5场演出,场场爆滿。  
e. 向南京城内进行猛烈炮击，时间长达一小时之久，酿成炸死炸伤中国军民2 000多人，  
f. 高压锅锅盖炸扁了。

英語では結果構文として表現できないものも中国語で表現できる。つまり、中国語はスケールからみると、動詞はスケールを語彙的に指定しないタイプの言語である。語彙的な指定を持っていない動詞は様々なスケールを表す述語と共起できる。(48)をみると、すべての動詞は非スケール動詞であると考えられる。動詞の意味は統語レベルになってから初めて指定される。これは分析的言語 (analytic language) である特質で、つまり単語の意味指定は形態的、統語的な操作によって行われることになる。一方、英語は合成的言語 (synthetic language) であるため、一つの単語に語彙



的な意味が指定される。

## 7. 結論

スケール構造理論から英語結果構文と対応する中国語の構文を比較してきた。両言語の差異を以下のようにまとめられる：

- (47) 英語の結果構文の場合は、閉鎖スケールを有するものか非段階的な形容詞しか結果述語として振る舞うことができない。e.g. full, dry, wet, dead, broken. 結果構文の完結性は結果述語によって成立し、閉鎖スケール形容詞は最大値という極点を持っているため、動作が働きかける事象を終結することができるからである。
- (48) 英語の場合は、開放スケールの形容詞は結果述語として許されない。e.g. long, tall, dull. なぜならば、開放スケールの形容詞は極限值を持っていないため、結果構文には現れないからである。
- (49) 中国語は、英語より結果述語として容認できる形容詞の種類が広い。例：(5)―(10)
- しかし、派生的結果述語を持つ結果構文においては、開放スケール形容詞が制限される。例：写文章写断了一支铅笔 / \*写文章写短了一支铅笔。
- (50) 英語の段階スケール形容詞は内在的基準点が含意されるもの（閉鎖スケール形容詞）と含意されないもの（開放スケール形容詞）に分かれるが、中国語の段階スケール形容詞は内在的に比較の基準を含意している。そのため、開放スケール形容詞でも結果述語として振る舞うことができる。

## 参考文献

- Beavers, John. (Under review) . "Aspectual Classes and Scales of Change". Unpublished ms., The University of Texas at Austin.
- Beavers, John. 2008. Scalar complexity and the structure of events. In Johannes Dolling, Tatjana Heyde-Zybatow, and Martin Schaller, eds., *Event Structures in Linguistic Form and Interpretation*, 245–265. Berlin: Mouton de Gruyter.
- Boas, Hans C. 2003 *A Constructional Approach to Resultatives*. CSLI Publications, Stanford, CA.
- Chao, Yuen Ren. (1968) *A Grammar of Spoken Chinese*. Berkeley, CA: University of California Press.
- Cheng, Lisa Lai-Shen, and C.-T. James Huang. (1994) "On the argument structure of resultative compounds." In Matthew Y. Chen and Ovid J. L. Tzeng (eds.) *In Honor of William S.-Y. Wang: Interdisciplinary Studies on Language and Language Change* 187–221. Taipei: Pyramid Press.
- Goldberg, Adele E. and Ray Jackendoff: 2004, 'The English Resultative as a Family of Constructions', *Language* 80, 532–569.
- Hovav, Malka Rappaport 2008. "Lexicalized meaning and the internal temporal structure of events." in Susan

- Rothstein (ed.) *Theoretical and Crosslinguistic Approaches to the Semantics of Aspect*. p. 13-42. John Benjamins Publishing Company.
- Huang, C.-T. James. 1992. Complex predicates in control. In *Control and grammar*, ed. by James Higginbotham et al., 109-147. Dordrecht: Kluwer.
- Huang, C.-T. James. 2006. Resultatives and Unaccusatives: a Parametric View. *Bulletin of the Chinese Linguistic Society of Japan* 253: 1-43
- Kennedy, Chris and Beth Levin: 2008, 'Measure of Change: The Adjectival Core of Degree Achievements' , in L. McNalley and C. Kennedy (eds.) , *Adjectives and Adverbs: Syntax, Semantics, and Discourse*, 156-182. Oxford University Press, Oxford, UK.
- Kennedy, Christopher and Louse McNally 2005. "Scale Structure, Degree Modification, and the Semantics of Gradable Predicates." *Language* Vol. 81, 345-380.
- Li, Yafei. (1990) "On V-V compounds in Chinese." *Natural Language and Linguistic Theory* 8:
- 刘月华 潘文娒 故wēi (赵淑华) 1991相原茂 (監訳) 片山博美 守屋宏則 平井和之 (共訳) 「第5章 補語」『現代中国語文法総覧 (下)』くろしお出版
- 马真、陆俭明 1997. 「形容词作结果补语情况考察」《汉语学习》1997年第1、4、6期.
- 小野尚之編 2007.『結果構文研究の新視点』ひつじ書房.
- 彭国珍 2007. 「英汉结果补语结构中补语形容词的差异」《语言教学与研究》2007年第3期.
- Rappaport Hovav, Malka and Levin, Beth 2001. An Event Structure Account of English Resultatives. *Language*, 77. p. 766-797.
- Rosenbaum, Peter 1967. *The grammar of English predicate complement constructions*. Cambridge, Mass: MIT Press.
- Rotstein C, Winter Y. 2004. Total adjectives vs. partial adjectives: Scale structure and higher order modifiers. *Natural Language Semantics* 12 p. 259-288.
- 沈力 林宗宏 2009. 沈力 (主編) 「国語の結果構文と事象構造」《汉语理论语言学研究》p. 197-209. 学苑出版社.
- Sybesma, Rint 1999. *The Mandarin VP*, Dordrecht : Kluwer Academic Publisher.
- Vangen Wyngraerd 2001. "Measuring Events." *Language* Vol. 77, No.1, 61-90.
- Vendler, Zeno: 1957. 'Verbs and Times' , *The Philosophical Review* 66, 143-160.
- Wechsler, S. 2005. "Resultatives Under the 'Event-Argument Homomorphism' Model of Telicity." In Erteschik-Shir and Rapoport (eds.) , *The Syntax of Aspect: Deriving Thematic and Aspectual Interpretation*, p. 255-273. Oxford: Oxford University Press.
- 詹卫东 2010. 「复合事件的语义结构与现代汉语述结式的成立条件分析」北京大学汉语语言学研究中心.
- 张国宪 2006. 《现代汉语形容词功能与认知研究》商务印书馆出版.
- 朱德熙 1982. 《语法讲义》商务印书馆.